

柳井の白壁泳げぬ金魚

柳井市の観光名所、白壁の町並みの軒先でそよぐ地元民芸品金魚ちょうちんが大量に姿を消した。風雨にさらされて傷み、年に何度も付け替える必要があるため、市が通年設置をやめたからだ。白壁と赤いちょうちんのコントラストを目当てに訪れる観光客や写真愛好家も多く、地元住民や通りの店からは困惑の声も上がっている。(堀晋也)

市、ちょうちんの通年設置取りやめ



①軒先の金魚ちょうちんが少なくなった白壁の町並み
②白壁の町並みを彩る金魚ちょうちん
(2020年4月)

大雨続き予備品薄 撮影名所地元戸惑い

市は国の重要伝統的建造物群保存地区でもある町並みの通り200以上に約200個の金魚ちょうちんを飾ってきた。だが2020年11月末に撤去し、今は通りの住民や店舗が個人的に飾る数個が揺れるだけ。市は3月ごろ再び設置する。20年末に広島県熊野町から夫

婦で訪れた主婦は「目玉と思っていただけに残念」と通りを後にした。隣の岩国市での岩国錦帯橋空港開港に合わせ、柳井市は12年から通年で設置してきた。市は毎年、一定数を新調し予備に回すが近年は大雨に頻繁に見舞われ、予備が底を突き始めたとい

3学期放送で意欲新たに 県内小中 コロナ対策して始業式



県内の大半の公立小中学校で8日、3学期が始まった。

岩国市車町の川下小では、冬休みを終えた全校児童約460人が登校し、新たな気持ちで最終学期を迎えた。

3学期の目標を1年2組の児童が「一年の校長が一年の一人一人が力を晴らしい学校に呼び掛けた。嶋谷真子教諭過し方などを後、それぞれ3をプリントに書き永井あかりさん字をきれいに書笑顔を見せた。県教委による17市町の公立小1分校と中学校2分校が新学期スタート。感染拡大に校で冬休みを短市の小中学校は町は6日に3学

がん患者に髪でエール

医療用かつら製作に寄付を ヘアドネーション

がん患者やその家族を支援する山口市の市民団体ボポメリが、県内の美容室や起業家の協力を得て、医療用かつら向けに髪を寄付する「ヘアドネーション」の普及に力を入れている。PR動画を制作中で「支援の輪が広がるきっかけになれば」と願っている。

山口の団体 PRへ動画



波多野さん(手前)が切った寄付用の髪を持つ藤本さん

がん患者やその家族を支援する山口市の市民団体ボポメリが、県内の美容室や起業家の協力を得て、医療用かつら向けに髪を寄付する「ヘアドネーション」の普及に力を入れている。PR動画を制作中で「支援の輪が広がるきっかけになれば」と願っている。

山口総合

「手術後のつらい時、外見のケアが自分らしくいられる力になると感じ、寄付を始めたい」と振り返る。カットした美容師波多野早苗さん(58)も元乳がん患者で「チーム「輝ら女」に所属するカメラマンの協力を得

け、楽しくなった」と語る。PR動画は、散髪の様子や2人へのインタビューを撮影した。県内の起業家たちでつくる女性クリエイターチーム「輝ら女」に所属するカメラマンの協力を得

県に出した緊急受け、対応を協に開いた対策本明らかにした。目標に準備する村岡副知事ナ対応に当たるに指示した。現保している42232床が即応している。県内の101人(77)逼迫した状況で、今後の急増全病床を即応病棟稼働できるよ会議後、村岡各地の感染の

た。約3分に編集し、2月に市内である県のイベントで上映する予定だ。ボポメリのホームページでも公開し、ヘアドネーションの方法などを広く伝えていく。

松原将司陸士官新成人の隊員たソメイヨシノを

ボポメリは2019年12月、がん患者たちが気軽に生活の悩みや体験を共有できる場をつくらうと、藤本さんたち5人で設立した。現在オンラインで週1回、市内の会場で月1回座談会を開き、県内外の患者や家族が交流している。

陸自新成人 植樹で祝う 山口駐屯地

動画は中国新聞 デジタルで

動画は中国新聞 デジタルで